



考えてください なぜあいさつは大切なのか？



2学期になって、気になっていることがあります。朝、正門で交通指導をしています。1学期の最初の頃に比べて、あいさつの声が小さくなっています。ほとんどの人があいさつはできるのですが、声が小さい人が多いのです。

「あいさつ」を漢字で書くと「挨拶」となります。「挨」には、「押し開く、互いに心を開いて近づく」という意味があります。また、「拶」には、「迫る、すり寄る」という意味があり、あいさつとは、「出会った人が互いに心を開いて、お互いを認め合い、お互いのおかげで生きていることを感謝すること」なのです。つまり、「あなたと私は、この世界で同じ時間を一緒に過ごす大切な

関係」であり、「あなたは、私にとって大切な人だと伝えること」なのです。実は、こんなに深い意味があったのです。

なぜ、あいさつは大切なのか？人によっていろいろな理由が考えられると思います。私は次の3つを考えています。これは正解でも解答でもありません。間違っているかもしれません。みなさんがあいさつについて、自分なりに考えるきっかけとしてください。

1 あいさつをされる人、あいさつをする人、両方とも気持ちがよくなるから

上の絵は、2年前に行われた第9回「わたしの『平成しぐさ・ふるさとしぐさ』コンクール」イラスト部門で最優秀賞になった千葉県八千代市の中学1年生の作品です。「笑顔のあいさつは 幸せのおすそわけ」という言葉が入っていますが、まさに、あいさつする方もされるほうも気持ちがよくなるのです。自分が気持ちのよいあいさつをして、相手から気持ちのよいあいさつが返ってきたとき、何とも言えないよい気分になった経験は誰にもあるはずですよ。

2 印象がよくなり、人間関係がうまくいくから

あいさつをされる人、あいさつをする人、両方とも気持ちがよくなるのだから、当然、相手はよい印象をもってくれます。あいさつを続けていると、人間関係もうまくいき、トラブルが少なくなります。そして、あいさつがきちんとできる人は、周囲の人からの信頼を得ることができます。

3 社会全体が実行しているルールだから

社会生活を営んでいくためにマナーとか常識として、世界中であいさつが行われています。あいさつができない人は、社会や所属集団から受け入れられないこともあります。学校でも先生方からよく指導をされていますが、あいさつは「相手に伝わる声の大きさで」「相手の目を見て」しなければ、伝わらないのです。せっかくあいさつをしても、声が小さくて相手に伝わらなければ、しなかったのと同じになることもあるのです。また、相手の目を見ずにしても、あいさつしようとしたあなたの気持ちは伝わらないことが多いのです。

なぜあいさつは大切なのか、しなければいけないのか。一方的に押しつけられるだけで、自分なりに考えてみないと、「先生が見ていないところではやらない」「恥ずかしい」「めんどくさい」となってしまいます。あいさつが大切だと思うその心が大切なのです。「あいさつって大切だよな～」と思う心をもっていれば、あいさつができなくなることはないはずですよ。

次号では、あいさつについての2つのエピソードを紹介します。繰り返しますが、正解はありません。誰かに教えられるのではなく、自分で、自分なりに考えてみるのが何よりも大切です。